

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
G304	経済政策論Ⅱ	3年	講義	2	今喜史
授業概要 「たばこの税金が上がるらしい」とか、「農産品の貿易を自由化すると、コメなどを生産する農家はどうなってしまうのか」といった議論を聞くことがあるでしょう。このように、ある特定の製品や産業に対して行われる政策は、マイクロ経済政策と呼ばれます。「経済政策論Ⅱ」では、税金や貿易自由化などのマイクロ経済政策が、その産業の生産者や消費者にどのような影響を及ぼすのか、標準的なマイクロ経済学に基づいて詳しく分析します。わたしたち一般の市民からすると、「これはちょっと嫌だな」と思ってしまうような政策にも、じつは望ましい効果があるということを明らかにしたいと思います。なお、一国全体の経済にかかわるマクロ経済政策については、「経済政策論Ⅰ」で議論します。					
到達目標(学習の成果) ①マイクロ経済政策にはどのような手段があり、どのような意図で行われているのかを説明することができる(DP3) ②余剰分析の手法を理解し、税金や貿易自由化などの政策の是非について、自分の意見を説明することができる(DP3)					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	マイクロ経済政策の目的と手段	マイクロ経済政策とマクロ経済政策の違いを理解し、市場経済とはなにかを復習する			
2	消費者行動と需要曲線	右下がりの需要曲線の意味について復習する			
3	生産者行動と供給曲線	右上がりの供給曲線の意味について復習する			
4	市場均衡	それぞれの財の価格がどのように決まるのか、市場均衡の概念を理解する			
5	余剰と効率性	経済政策の効果を明らかにするために、「政策が行われない場合」の厚生を理解する			
6	課税による影響	タバコ税やガソリン税など、個別の財に消費税が課された場合の影響を分析する			
7	課税がもたらす厚生の損失	なぜ一般には課税は経済厚生を下げってしまうのかを理解する			
8	外部不経済	周囲に迷惑を及ぼしてしまう外部不経済の概念について知る			
9	ピグー税による外部不経済の解決	環境汚染などの外部不経済を是正するためには、税金が正当化されることを理解する			
10	貿易の自由化① 輸入のケース	ある製品の貿易を自由化すると、経済厚生がどのように変化するのかを理解する			
11	貿易の自由化② 輸出のケース	自由化にともない、輸出と輸入のどちらが増えるのかを考える			
12	自由貿易をめぐる各国の反応	日本やアメリカの最近の貿易政策をめぐる問題点を理解する			
13	競争と独占	競争の激しい産業と、少数の大企業による独占となっている産業の違いを理解する			
14	競争政策とはなにか	独占を防ぐために、政府がどのような競争政策を行っているのかを知る			
15	講義のまとめ・マイクロ経済政策	さまざまなマイクロ経済政策の効果について、論点を整理する			

準備学修(授業外の自己学修)

毎回の講義内容について、ノートなどでじゅうぶん復習をしてから、次の週の講義に出席するようにしてください。

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験(80%)、宿題(20%)

観点	S	A	B	C
マイクロ経済政策のもつ経済的なメカニズムについて理解しているか(DP3)	非常によく理解している	よく理解している	ある程度は理解している	最低限は理解している
余剰分析の手法を使って、マイクロ経済政策の是非を説明することができるか(DP3)	非常によく説明できる	よく説明できる	ある程度は説明できる	最低限は説明できる

教科書

特に指定しません。

講義で使用するプリントなどの資料は、すべて教室で配布します。

参考書等

小川 光、家森 信善(著)、『マイクロ経済学の基礎』、中央経済社、2016年、本体2000円。

小田切 宏之(著)、『競争政策論(第2版)』、日本評論社、2017年、本体2500円。

履修上の注意・学修支援

事前に「マイクロ経済学I」を履修していると、この講義の内容も理解しやすいと思います。

期末試験は、すべての回の講義内容を理解していることを前提に、「持ち込み不可」で行います。